

2020 年度自由学園最高学部 4 年課程卒業研究・2 年課程卒業勉強

奈良 忠寿

2020 年度最高学部 4 年課程卒業研究は 21 人が 17 のテーマに取り組んだ(個人研究 15・共同研究 2)。2 年課程卒業勉強は 2 人がひとつのテーマに取り組んだ。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大対策のためオンライン講義期間などもあり、研究には例年とは異なる困難があった。成果はそれぞれ論文にまとめられ、2021 年 2 月 20 日(土)にオンラインで開催された報告会で発表された。

I. 最高学部の卒業研究と卒業勉強とは

自由学園最高学部生は 4 年課程(四年制)・2 年課程(二年制)とも、自由学園での学びの“まとめ”として、最終学年の 1 年間を通して研究活動を行う。研究成果は、論文として纏められ、卒業直前に開催する報告会で口頭発表される。2020 年度は表 1 に示す 18 本の論文が提出された。これらの論文は、一部制限がかかっているものもあるが、自由学園図書館で閲覧できる。

4 年課程の卒業研究は、3 年次から 2 年間所属する「領域横断研究」「経営実践研究」のゼミナールで進められる。領域横断研究は、最高学部で展開するリベラルアーツを土台とする研究である。学生の問題意識や興味・関心に端を発することが多く、設定した研究課題の解決のために必要な専門分野を修得し、特定の専門の枠を超えた研究活動を行うことで創造的に探究する力を養う。学生個人と指導教員の閉じた関係だけではなく、ゼミナール間、クラス間の交わりからも研究を重ねあう。この姿勢は自由学園最高学部創立以来涵養されたものであるが、領域横断研究では学問領域を横断する幅広い視野を養うことを強調している。

経営実践研究は「マネジメント」ゼミナールから成る。自由学園の教育理念に呼応する経営者像を掲げ、人を大事にし、社会への新たな構想を持ちつつ、事業革新に挑戦する次世代経営者、起業家あるいは社会貢献団体経営者たる資質を養う。マネジメントに所属する学生は 3 年次に学外研修(おもに企業インターンシップ)を行うことが義務付けられている。

2 年課程の卒業勉強ならびに最高学部の研究活動全般の特徴については(遠藤 2019・2020a・2020b)を参照されたい。

II. 2020 年度の研究内容

2020 年度の 4 年課程卒業研究と 2 年課程卒業勉強について、報告会の予稿集(最高学部 2021)をもとに特徴的な研究を紹介する。

2020 年度も自由学園や自身の経験に根差した研究が多く見られた。また共同研究で進められ共著となった論文だけでなく、フィールドサイエンスゼミの論文も相互に関連した内容であり、フィールドワークは共同で進められた。

マネジメントゼミの研究は、昨年度と同様にサッポロ不動産開発会社と産学連携が進められ、2019 年度卒業研究「恵比寿のまちのアイデンティティに関する研究」で明らかになった若者の訪問意向の希薄さに対する解決策を検討した。

2 年課程 2 年生による卒業勉強は、戦争体験の継承という課題に対し、自由学園に所蔵されている資料を生徒への平和学習教材として活用する際に役立つ参考資料の整理作成と、今後の学習プログラムの提案が行われた。なお、この研究で進められた「勤労報告隊日記」の読解は、ちょうど編纂中だった『自由学園 100 年史』の編纂の上でも示唆に富むものであった。

学生による学会発表として、1 の研究成果の一部は地下水学会令和 2 年度秋季講演会、11 の研究成果の一部は第 89 回形の科学シンポジウムにて発表された。

III. 2020 年度の報告会

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐため、研究成果報告会は Zoom を用いたオンライン発表で実施した。報告会運営や機材の点でも手探りで、9 月・12 月の学内向けの経過報告会を成果報告会の運営や機材を見据えた試行と、例年よりも意識し実施した。当日は中継映像や音声に

トラブルが発生したが、聴衆の点ではとくに保護者が例年よりも多く、オンライン開催は遠隔地や多忙な中でも参加しやすいというメリットを強く感じる会となった。

おわりに

2020年度は、学期の半年間が校内入構制限とオンライン講義の実施という、卒業研究、そのなかでもフィールドワークを中心とする研究を進めるうえで、非常に困難な年であった。それを成し遂げたのは第一に学生の努力による。

2020年度の卒業研究・卒業論文を概観してきたが、身近な経験に基づく視点から、社会的課題に切り込む論考が多く認められ、自由学園ひいては自由学園最高学部の教育がめざしているものが結実した印象を受ける。

謝辞

例年とは異なる困難のなか、学生の研究指導にお力添え下さったすべての皆様に、この場を借りて

深く感謝申し上げる。あわせて、報告会にご来場のすべての皆さまにあらためて感謝申し上げます。

参考文献

遠藤敏喜 2018年度最高学部4年課程卒業研究・2年課程卒業勉強について 自由学園年報 第23号 2019年2月 57-60ページ

遠藤敏喜 2019年度最高学部4年課程卒業研究・2年課程卒業勉強について 自由学園年報 第24号 2020年2月 149-152ページ

遠藤敏喜 2018年度最高学部4年課程卒業研究ならびに2年課程卒業勉強について 生活大学研究 5巻1号 2020年6月10日 139-142ページ

自由学園最高学部 2020年度卒業研究・卒業勉強報告会 予稿集 2021年2月20日発行

吉川慎平 フィールドサイエンスゼミの4年生が日本地下水学会で口頭発表をしました 自由学園公式ウェブサイト

<https://www.jiyu.ac.jp/college/blog/kj/65115>, 2020年12月14日公開

表1 2020年度 論文題目一覧

領域横断研究:フィールドサイエンス	
1	自由学園を取り巻く水循環の実態と水利用の最適化
2	自由学園を取り巻く浅層地下水の調査と活用 -地下水マネジメントに向けて-
領域横断研究:ヒューマンサイエンス	
3	メディアにおける物性と物質性
4	大麻の社会的利用の可能性を探る
5	共同体の新しいかたち
6	山本鼎を通してみる「生活美術」の今日的意義
7	SNSと欲求の関係 -承認欲求・経済的欲求から考える-
領域横断研究:データサイエンス	
8	食品ロスへの意識を促す食事注文システムの開発
9	発表学習におけるフィードバック支援アプリの開発と使用効果の検証
10	2次元コードのカラー化とその応用
11	伐採樹木の活用促進を視野に入れた木材乾燥法の研究
領域横断研究:ライフスタイル	
12	プラスチック汚染に対するライフスタイルからの考察 -自由学園からできることを中心に-(共著)
13	幸せに生きるライフスタイルとは -デンマークと日本におけるワークライフバランスの比較から-
14	最高学部学生の学校行事への参加意識の向上に関する研究 -体操会における改善策の考察-
15	小林一三が創り上げた生活文化とその思想についての研究 -都市型ライフスタイルの視点から-
16	自由学園食事研究グループクッキーの魅力向上に関する研究 -ブランド価値の視点から-
経営実践研究:マネジメント	
17	恵比寿のまちのブランディングに関する研究(共著)
2年課程卒業勉強	
18	自由学園女子部の学徒動員の実態調査とその継承への試み -女子部26回生の『勤労報告隊日記』から-